

公印省略

健康第 559 号
令和2年5月19日

厚生労働大臣 殿

大 分 県 知 事

新型コロナウイルス感染症発生下における医療提供体制及び
検査体制の現状に関する認識について（回答）

令和2年5月14日付け、厚生労働省発健 0514 第8号にて照会のあった標記の
件について、別紙のとおり回答します。

医療提供体制の現状について

現在、確保している入院患者受入病床は258床であり、300床を目標に確保を進めている。また、宿泊療養施設は、100室を目標に65室を確保しているところ。

現時点では、大分県の患者数の累計は60人であり、そのうち重症者は死亡した1人も含め2人となっており、最大入院者数は32人、現在、3人が入院中である。また、宿泊療養の対象となる患者は現時点ではない状況である。

ただし、妊産婦や小児はもとより、透析患者などリスクの高い患者の受入については、特に意を用いているところであるが、人口も少なく、従って病床数も限られている本県において予想を超えて患者数が増えた際には、対応できない可能性もあると考えている。

特に、心配されるのはマスクや防護服、消毒液の確保である。4月初旬に県内で防護服が逼迫した際には、九州地方知事会の広域連携により、防護服の提供をいただき、難を乗り越えることができた。第2波に備え、国において、マスクや防護服、消毒液の備蓄が必要と考える。

検査体制の現状について

検査体制の拡充については、機器整備に加え、家畜保健衛生所など他部局からPCR検査に対応できる職員を派遣する体制を構築し、大分県で1日144検体、大分市で60検体、合せて204検体の検査ができるまでになった。

300床の病院におけるクラスター発生時には、検査可能件数を超える検査を短期間に行うことになり、他県に協力を要請することとなった。今後とも、こうした事案の発生が考えられることから、九州地方知事会において協力体制を構築している。

また、大分市保健所でも5月20日にPCR検査機器が増設されることから、1日あたり264件まで、検査能力が向上することとなっている。

更に、保健所の負担を増やさずに、PCR検査件数を確保するため、医師会と連携して地域外来・検査センターの設置も進めるとともに、民間の検査機関も活用できるよう、医療機関との契約を進めている。